

真鍋島方言と佐柳島方言のアクセントについて ― 中間報告

中 井 幸比古

山本サワノ氏、黒田福江氏、前田カズ氏に深甚な謝意を表します。

1.1 本稿の目的

マナベシマ^{マナベシマ} 真鍋島（岡山県笠岡市）と県境を間にはさんで南隣りに位置する^{サナギジマ}佐柳島（香川県仲多度郡多度津町）という二つの島の方言のアクセントに関する調査報告（中間報告）を行ない、それにもとづく音韻論的な解釈を提示する。

1.2 従来の研究とその問題点

真鍋島方言と佐柳島方言のアクセントについては、すでに調査報告がいくつか出されている。その中で金田一・秋永・金井(1966)がもっともまとまっており、両島とその周辺のいくつかの島の方言のアクセントを扱っている。ほかに虫明(1954)が真鍋島方言のアクセントを、秋永(1966)が佐柳島方言のアクセントを扱っている。私が真鍋島岩坪^{イワツボ}で行なった調査では、金田一氏らの調査とかなりちがう結果を得た。

以上の調査報告をもとに音韻論的な解釈をほどこしているものに、服部(1973)（ただし佐柳島方言のみ）、上野(1977)などがある。服部、上野両氏の音韻論的な整理は、私の調査の非常に助けになった。この二論文のおかげで、まがりなりにも調査ができたといっても過言ではない。ところで、両氏の解釈はほとんど一致するが、ただ次の一点では大きくいちがっている。服部氏はモーラ数がふえるにつれてアクセント型の数もふえる体系である、とされたのに対し、上野氏はいくら長くなっても4つの型しか区別されない「4型アクセント」であるとされた。ところが従来の調査報告が4モーラ以上の名詞を扱っていないことなどから結論が出ていなかった。

1.3 調査地点、インフォーマント、調査方法など

地点別にインフォーマントの氏名と略歴（性別・生年・外住時の年齢・外住の長さ・外住した場所、の順に示す）を掲げる。

マナベシマ^{マナベシマ}イワツボ^{イワツボ} 真鍋島岩坪（人口330人）：^{ヤマモト}山本サワノ氏（女・明38・40才代・9年・大阪）、山本カネ氏（女・明44・17才・1年・神戸・50才代・7～8年・広島）、他に中学生1名を調査した。また60才代女性数名を30分ほどづつ調査できたが両山本氏と同じ結果を得た。

ホンムラ^{ホンムラ} オクガワ^{オクガワ}キクジ^{キクジ} 真鍋島本浦（人口490人）：^{カワカミ}奥川喜久治氏（男・明37・30～50才代・25年・大阪）、川上タ

ツエ氏(女・明43・20才代・2年・舞鶴ほか), 片山安江氏(女・大9・20才代・2年・呉),
小西久松氏(男・明33・30~40才代・10年・中国大陸), 志村一夫氏(男・昭4・10才代・5
年・笠岡), 他に中学生2名を調査した。

佐柳島長崎(人口は佐柳島本浦とあわせて330人): 黒田福江氏(女・大9・外住なし), 前田
カズ氏(女・大3・30才代・3年・神戸: 一時佐柳島本浦に住む), 森田イワノ氏(女・明45・20
~60才・40年・阪神へ)。

佐柳島本浦: 瀬戸モノ氏(女・明45・30才代・8年・四国方面), 数ヨシエ氏(女・大8・
外住なし? なお金田一他(1966)のインフォーマントと同一人物)。

かなり長い外住の経験者をインフォーマントとせざるを得なかったが, 両親はいずれも同島同集
落出身のかたばかりである。なお, この他に二, 三の方に協力していただいたが, 色々な理由で調
査結果を得ることができなかった。

次の方々にはインフォーマントの紹介などでずいぶんお世話になった。真鍋島: 志村一夫氏, 真
鍋礼三氏, 真鍋中学校諸先生。佐柳島: 谷頭信雄氏, 佐柳中学校諸先生。

本稿を拙いながらもまとめることができたのも, 単調な作業に長時間たえて下さったインフォーマ
ントの皆さん, 特に山本サワノ, 黒田福江, 前田カズの3氏, またお忙しい中インフォーマントの
紹介をして下さった皆さんの御厚意があればこそと, 深く感謝している。

調査期間は1981年7~8月, 10月, 1982年3月, 5月, 7~8月, 各4~10日間ずつである。

調査方法は次のとおりである。まず各インフォーマントについて2時間程度の簡単な調査を行な
った。さらに山本サワノ(岩坪), 黒田福江, 前田カズ(長崎)の各氏には, 継続して助詞のアク
セント, 用言の活用にとまなうアクセント交替(本稿では紙面の都合で省略する), 金田一(1974)
の付表8(pp.62~73)の全語彙アクセント, および4モーラ以上の名詞のアクセントの調査に協
力していただいた。4モーラ以上の名詞については私が任意に選んだ単語をある程度読んでもらっ
ておおよそのけんとうをつけたあと, 平山(1979)にもとづく基礎語彙調査を開始した。岩坪, 長
崎とも1~9と11の各分野を終えたところである。できるだけ早く完成させたい。本稿の記述は特
にことわらない限り, 佐柳島については黒田, 前田両氏の, 岩坪方言については山本サワノ氏の,
調査結果にもとづく。

2. 佐柳島方言のアクセント

2.1 はじめに

佐柳島には長崎と本浦の2集落がある。両集落の方言の間には, アクセントのちがいはない。私
の調査は長崎を中心とした。

2.2 名詞のアクセント

1~3モーラの名詞については, 金田一・秋永・金井(1966)[秋永氏が佐柳島方言の調査執筆]

による報告がある。私の調査結果は大部分これと一致した。表1に私の調査結果をまとめた。

表1 佐柳島方言・名詞のアクセント

1-2b 葉	「ハ」ー。	「ハ」(ー)△。	「ハ」(ー)△…
1-2z 蚊	カ「ハ」。	カ(ー)「ハ」△。 〔「イ」以外〕	カ(ー)△…
		カ「ハ」イ。	カ「ハ」イ…
2 a 山	ヤ「マ」。	ヤ「マ」ニ。 〔狭〕	ヤマ「ハ」△…
		ヤマ「ガ」。 〔広〕	
2 b 石	「イ」シ。 〔狭〕	「イ」シ△。	「イ」シ△…
2 b' 音	オ「ハ」。 〔広〕	オ「ハ」△。	オ「ハ」△…
2 c 庭	ニ「ワ」。	ニ「ワ」ニ。 〔狭〕	ニ「ワ」ニ…
		ニワ「ガ」。 〔広〕	ニワ「ガ」…
2 z 糸	イ「ト」。	イト「ハ」△。 〔「イ」以外〕	イト△…
		イト「ハ」イ。	イト「ハ」イ…
3 a 鏡	カ「ガ」ミ。 〔狭〕	カ「ガ」ミ△。	カガ「ミ」△…
3 a' 袋	フク「ロ」。 〔広〕	フク「ロ」△。	フク「ロ」△…
3 b 柱	「ハ」シラ。 〔狭広〕	「ハ」シラ△。	「ハ」シラ△…
3 b' 岬	ミ「サ」キ。 〔狭 広〕以外	ミ「サ」キ△。	ミ「サ」キ△…
3 c 鰯	イ「ワ」シ。 〔狭〕	イ「ワ」シ△。	イ「ワ」シ△…
3 c' 畑	ハタ「ケ」。 〔広〕	ハタ「ケ」△。	ハタ「ケ」△…
3 z 兎	ウサ「ギ」。	ウサギ「ハ」△。 〔「イ」以外〕	ウサギ△…
		ウサ「ギ」イ。	ウサ「ギ」イ…
4 a 山道	ヤマ「ミ」チ。	ヤマ「ミ」チ△。	ヤマ「ミ」チ△…
4 b 小遣	「コ」ズカイ。 〔狭広〕	「コ」ズカイ△。	「コ」ズカイ△…
4 b' 朝顔	ア「サ」ガオ。 〔狭 広〕以外	ア「サ」ガオ△。	ア「サ」ガオ△…
4 c 産毛	ネ「コ」ヒゲ。 〔狭広〕	ネ「コ」ヒゲ△。	ネ「コ」ヒゲ△…

注

1) 「△」は1モーラの付属語を示す。ただし、「イ」(方向・帰着点)については注5)を参照。

2) 〔狭〕は狭い母音〔i, u〕を〔広〕は広い母音〔a, e, o〕を示す。なお、長音節を含む場合のアクセントについては2.3を参照。

3) ピッチを示すための記号は次のとおりである。「ハ」は上昇、「ハ」は下降、「ハ」はそのモーラ内の上昇調、「ハ」はそのモーラ内の下降調、をそれぞれ意味する。記号が何もついていないもの(たとえば2 z〔イトガ…〕)は全てのモーラが低いことを示す。

4) 調査した1モーラの付属語のうち、広い母音をもつものは「ガ、エ(方言形は「イ」)、オ、ジャ、デ、ト(並列、引用)、ノ、モ、ワ」で、すべて同じアクセントである。狭い母音をもつものは「ニ、イ」である。2 aと2 cの名詞に付属語をつけた場合、付属語の母音の広狭によってピッチ形が異なる。表中では広い母音をもつものを「ガ」で、狭い母音をもつものを「ニ」で代表させた。

5) 付属語「イ」はz系列以外の名詞についたときは「ニ」と同じアクセントであるが、z系列の名詞についたときだけは

4c 金槌	カナ「ズ」チ。 〔狭 広〕以外	カナ「ズ」チ<。	カナ「ズ」チ<…
4d 四千	ヨン「ゼ」ン。 〔狭〕	ヨン「ゼ」ン<。	ヨン「ゼ」ン<…
4d' (欠)	〇〇〇「〇」。 〔広〕	〇〇〇「〇」<。	〇〇〇「〇」<…
	(蒔いた「ら」)。	(蒔いた「ら」と)。	(蒔いた「ら」と…)
4z 旋毛	ギリギリ「リ」。	ギリギリ「リ」<。 〔「リ」以外〕	ギリギリ<…
		ギリギリ「リ」イ。	ギリギリ「リ」イ…
5a 消壺	ヒケ「シ」ツボ。	ヒケ「シ」ツボ<。	ヒケ「シ」ツボ<…
5b 台所	「タ」イドコロ。 〔狭 広〕	「タ」イドコロ<。	「タ」イドコロ<…
5b' 女学生	ジョ「ガ」クセー。 〔狭 広〕以外	ジョ「ガ」クセー<。	ジョ「ガ」クセー<…
5c 右左	ミ「ギ」ヒダリ。 〔狭 広〕	ミ「ギ」ヒダリ<。	ミ「ギ」ヒダリ<…
5c' 山桜	ヤマ「サ」クラ。 〔狭 広〕以外	ヤマ「サ」クラ<。	ヤマ「サ」クラ<…
5d 三千個	サン「ゼ」ンコ。 〔狭 広〕	サン「ゼ」ンコ<。	サン「ゼ」ンコ<…
5d' 雪滑	ユキス「ベ」リ。 〔狭 広〕以外	ユキス「ベ」リ<。	ユキス「ベ」リ<…
5e 打上	ウッチャ「ガ」リ。 〔狭〕	ウッチャ「ガ」リ<。	ウッチャ「ガ」リ<…
5e' 二重脰	フタカワ「メ」。 〔広〕	フタカワ「メ」<。	フタカワ「メ」<…
5z 船大工	フナダイ「ク」。	フナダイ「ク」<。 〔「ク」以外〕	フナダイ「ク」<…
		フナダイ「ク」イ。	フナダイ「ク」イ…

「ニ」とアクセントがこ
となる。表中で〔「イ」以
外〕としたのは「イ」以
外の1モーラの付属語と
いう意味である。

まず各系列ごとに、名詞のピッチ形について注意すべき点をのべる。

a 系列の上昇の位置は、表中では第2モーラと第3モーラの間に「」がある場合と第2モーラが文節末となる場合に第1モーラと第2モーラの間であり、それ以外の場合は第2モーラと第3モーラの間である、としたが、現実にはその位置は定めがたく第1モーラから高く文節全体が高平調にも発音されることがある。しかし、私のインフォーマントのうち、黒田、前田両氏には表に示したピッチ形が多く聞かれた。

同じくa 系列について、単独または付属語つき言いきりで〔〇〕と示したモーラにはしばしば下降調も現われる。たとえば2a〔ヤ「マ」。ヤマ「ガ」。ヤ「マ」ニ。〕, 3a〔カ「ガ」ミ。カ「ガ」ミ<。〕, 3a'〔フク「ロ」。フク「ロ」<。〕など。続ければ特に強調したりしない限り下降調が現われることはない。なお、秋永氏はa 系列にあらわれる下降調を2aに付属語がついた場合にしか報告されていない。ただ、a 系列における下降調の現われかたには個人差もあるようで、前田氏にとくに多く聞かれた。

「b」についてはだいたい〔○[↑]○₀〕(○_nはn以上の任意の個数のモーラを示す)というピッチ形で、はっきり〔[↑]○₁〕と聞こえることは比較的少なかった。

2cと2zの単独言いきりの発音はともに〔○[↑]○〕で、まれに〔○[↑]○〕も現われる。私の耳では区別できないが、インフォーマントに内省を求めたところ、区別があると言う人と区別はないと言うに分れる。ちがいがあ、という黒田氏、森田氏に両者を対比して発音してもらおうと、お二人とも2cの第2モーラを2zよりも強くかつ上昇の度合を大きく発音された。なお付属語なしでも続けた場合は下に示すようにはっきり区別できる。

- { 2c 釜 カ[↑]マ[↑]アル[↑]カ。カ[↑]マ[↑]コ[↑]ー[↑]タ。(買うた)
- { 2z 鎌 カマアル[↑]カ。カマ[↑]コ[↑]ー[↑]タ。

文節末尾以外の上昇調(3c, 4c, 5c, 4d, 5d, 5eおよび2cに「ニ」などをつけた場合に現われる)について検討する。私の調査では、このすべての場合に上昇調は安定していて高平調〔○[↑]〕に聞こえることはなかった。

音の長さや強さについて触れる。b～z系列のすべてと、a系列の言いきりの場合、〔○[↑]〕、〔○[↑]〕、〔○[↑]〕のモーラは他のモーラより、長めにかつ強めに発音される傾向がある。たとえば2b〔[↑]シ〕では第1モーラが、2b〔オ[↑]ト[↑]〕では第2モーラが、それぞれ長めにかつやや強く発音される場合が多い。なお、いくら長いといっても、それを2モーラとみなすことはできない。なお、この長めに発音する傾向は、文字を読み上げる場合よりも自然な会話においてより顕著である。

表中で1～2モーラと示した名詞は、単独ではほとんどの場合長く2モーラで発音されるが、付属語をつけたり、続けたりすると短く1モーラで発音されることもある。これは2モーラの名詞とは区別する必要がある。たとえば「帆」は1モーラでも発音されるが、「法」はつねに2モーラで発音される。

名詞の前に修飾語をつけた場合の、連語のアクセントについては、調査不十分な点が多く、ここでは「コノ」をつけた場合のアクセントを述べるにとどめる。「コノ」は2zに属する(〔コ[↑]ノ〕。コト[↑]「ユー。」く言う)。従って名詞の前に「コノ」をつけた場合、「コノ」自体は〔コノ…〕という低平のピッチ形である。「コノ」は名詞のアクセントには影響を与えず、名詞のアクセントは「コノ」をつけなかった場合と同じである。

各アクセント素の所属語彙をあげる。紙面の都合上、秋永氏の報告にない4モーラと5モーラの名詞に限り、各々数語づつあげるにとどめる。(多)と表示したものはそこに所属する語彙が多いもの、(少)は所属する語が少ないものである。〔〕内は単語の意味を示す。配列は五十音順である。

4a(多): あくる日、蒲鉾、ガラス戸、京都市、ドーソク〔蠟燭〕、ハチファイ〔八杯〕。4b: 座蒲団、獅子鼻、石炭(前田氏はシェ)、赤飯(前田氏はシェ)、ハクマイ〔白米〕。4b: 胃袋、おさがり、お握り、小包、ののさん〔幼児語で仏の意〕。4c: 岩坪〔真鍋島の集落名〕、カマツカ〔露草〕、竹馬、ナベスケ〔鍋敷〕、鼻糞。4c: (多)イタズリ〔虎杖〕、口紅、三万、煤取り、割箸。4d(少): 三千、六千、八千(但し黒田氏はこれらすべてを4zに発音される)。4d: (欠)。4z: 朝胆、遊び場、チチマメ〔乳首〕、はら痛、豚肉。5a(多): 糸切歯、男の子、すねかじり、

丸亀市, 南風。5b (少) : 明子さん〔人名〕, 消し忘れ, ハイナンゴ〔寄居虫〕, 焼き直し。5b' (少) : お母さん, お父さん, 二万円, 不釣合, 身ごしらえ。5c (少) : ゴカンニチ〔1月5日〕, 二千円, ふたいとこ。5c' (多) : 風車, 砂煙, 箱枕, 水遊び, 四万個。5d (少) : 八千個, 四千個, 六千羽。5d' (多) : 頭数, 亥の子餅, 隠し芸, 握り飯, 横鼻緒〔下駄の〕。5e (少) : コギツカイ〔こき使い〕。5e' (少) : ひんがら目。5z : アカチーソ〔赤紫蘇〕, だいだい酢, はったい粉, ひと回り, 丸なすび。

4d, 5d, 5e, 5e' は, ここにあげたものが今までの調査で得た語彙のすべてである。動詞からの派生名詞や数詞など, 特殊なものが多い。今後の調査によって補いたい。

2.3 付属語のアクセント

1 モーラの付属語のアクセントはすでに表1で示した。ここでは2 モーラの付属語のアクセントを検討する。表2に調査結果をまとめた。

表2 佐柳島方言 2 モーラ付属語のアクセント

1~2b 葉	「ハ」ー<△>。	「ハ」ー<△>…	4b	注 1) <△>は2モーラの付属語を示す。 2) 右端の数字と記号は文節全体のアクセントを示す。 3) 付属語の母音の広狭によりピッチ形がかわる場合には「マデ」と「ニワ」で代表させた。「マデ」は「サエ, ダケ, ヤカ(など), ヨリ」の代表で「ニワ」は「ニモ, シカ」の代表である。 4) 「カラ」はz系列以外の名詞についたときは「マデ」と同じアクセントで, z系列の名詞についたときだけはアクセントが異なる。 5) 4, 5モーラについてはz系列の場合のみを示した。
1~2z 蚊	カ「ニ」ニワ。 〔狭広〕	カ「ニ」ニワ…	4c	
	カー「マ」デ。 〔狭広〕以外	カー「マ」デ…	4c'	
	カーカ「ラ」。	カーカラ…	4z	
2a 山	ヤ「マ」ニワ。 }	ヤマ「<△><△>…	4a	
	ヤマ「ニ」ワ。 }			
	ヤマ「マ」デ。			
2b 石	「イ」シ<△>。	「イ」シ<△>…	4b	
2b' 音	オ「ト」<△>。	オ「ト」<△>…	4b'	
2c 庭	ニ「ワ」ニワ。 〔狭広〕	ニ「ワ」ニワ…	4c	
	ニワ「マ」デ。 〔狭広〕以外	ニワ「マ」デ…	4c'	
2z 糸	イ「ト」ニワ。 〔狭広〕	イ「ト」ニワ…	4c	
	イト「マ」デ。 〔狭広〕以外	イト「マ」デ…	4c'	
	イトカ「ラ」。	イトカラ…	4z	
3a 鏡	カ「ガ」ミ<△>。	カガ「ミ」<△>…	5a	
	カガ「ミ」<△>。			
3a' 袋	フク「ロ」<△>。	フク「ロ」<△>…	5a	
	フク「ロ」<△>。			

3b 柱	「ハ」シラ<△。	「ハ」シラ<△…	5b
3b' 岬	ミ「サ」キ<△。	ミ「サ」キ<△…	5b'
3c 鰯	イ「ワ」シ<△。	イ「ワ」シ<△…	5c
3c' 畑	ハタ「テ」<△。	ハタ「テ」<△…	5c'
3z 兎	ウサ「ギ」ニワ。 〔狭 広〕	ウサ「ギ」ニワ…	5d
	ウサギ「マ」デ。 〔狭 広〕以外	ウサギ「マ」デ…	5d'
	ウサギカ「ラ」。	ウサギカラ…	5z
4z 旋毛	ギリギ「リ」ニワ。 〔狭 広〕	ギリギ「リ」ニワ…	
	ギリギリ「マ」デ。 〔狭 広〕以外	ギリギリ「マ」デ…	
	ギリギリカ「ラ」。	ギリギリカラ…	
5z 船大工	フナダイ「ク」ニワ。 〔狭 広〕	フナダイ「ク」ニワ…	
	フナダイク「マ」デ。 〔狭 広〕以外	フナダイク「マ」デ…	
	フナダイクカ「ラ」。	フナダイクカラ…	

z 系列に「カラ」をつけた場合、特に強調して発音すると、「マデ」と同じアクセントになることもある。たとえば「イト「カ」ラ。イト「カ」ラ…」など。

秋永氏は、「ニワ」、「ニモ」を2モーラ名詞につけて言い切った場合、「ニ「ワ」」、「ニ「モ」」のようにも発音されるとしておられるが、私の調査ではこのようなアクセントはどのインフォーマントからも聞くことができなかった。

また、3z、4z、5z に「ニワ」をつけた場合、インフォーマントのうちで黒田氏は、「ウサギ「ニ」ワ」「ギリギリ「ニ」ワ」などのように、母音の広狭による相補分布を崩して「マデ」などと同じピッチ形で発音されることもあり、どちらも使うと言われる。

3モーラ以上の付属語のアクセントは省略する。

2.4 長音節のアクセント

この方言のアクセントの単位は音節ではなくモーラである。しかし、長音節の第2モーラ（撥音、促音、長母音の第2モーラ、連母音の第2モーラのうち「イ」）のアクセントには次のような制限がある。長音節の第2モーラには下降調が現われない。これを具体例の中で見ていく。まず3モーラ名詞をとりあげる。語頭が長音節の場合は次のようなアクセントである。

3c: 「冬至」〔ト「シ」ジ。ト「シ」ジ<△…〕, 「蚊」〔カ「イ」イ。カ「イ」イ<△…〕, 「すえる(灸)」〔セ「ル」ル。セ「ル」ル…〕 「薦」〔ト「ビ」ビ。ト「ビ」ビ<△…〕。ただし丁寧な発音ではいずれも〔○「」○, ○「」○〕である。なお、第2モーラが撥音の場合にかぎって語末モーラが狭いにもかか

ならず3c〔トン^ㇿ。トン^ㇿ△…〕のようにも発音される。

3b:「空気」〔^ㇿケーキ。^ㇿケーキ△…〕,「夫婦」〔^ㇿアーフ。^ㇿアーフ△…〕,「温度」〔^ㇿオン
ド。^ㇿオン△…〕,「女」〔^ㇿオンナ。^ㇿオンナ△…〕,「そっ歯」〔^ㇿソッパ。^ㇿソッパ△…〕,
「大豆」〔^ㇿダイズ。^ㇿダイズ△…〕。長音節の第2モーラをSであらわすことにすると、先に述べ
た「長音節の第2モーラに下降調が現われない」という制限によって、語末モーラの母音の広狭と
は無関係に〔^ㇿ〇^ㇿS〇〕というアクセントになる。なお、前田氏には〔^ㇿ〇^ㇿS〇～^ㇿ〇^ㇿS〇〕というピ
ッチの揺れが存在する。例えば〔^ㇿケーキ。^ㇿアーフ〕などのようにも発音される。一般的にb系列
について、〔^{*}〇^ㇿS^ㇿ〇₀〕というピッチ形は現われず〔^ㇿ〇^ㇿS〇₀〕というピッチ形のみが現われる。
さらに前田氏には〔^ㇿ〇^ㇿS^ㇿ〇₀〕というピッチ形も存在する。ここで〇_nはn以上の任意の個数のモー
ラを示す。

語末が長音節の3モーラ名詞のアクセントは次のようである。

3b:「向う」〔ム^ㇿコー。ム^ㇿコー△…〕,「密柑」〔ミ^ㇿカン。ミ^ㇿカン△…〕,「厚い」〔ア^ㇿツ
イ。ア^ㇿツイ△…。いずれも丁寧な発音では第2モーラに下降調があらわれて〔^ㇿ〇^ㇿS^ㇿ〕のよう
にも発音される。

3c:「田楽」〔オ^ㇿデン。オ^ㇿデン△…〕,「病」〔ヤ^ㇿマイ。ヤ^ㇿマイ△…〕。

一般に、c、d、e系列について〔^{*}〇₂^ㇿS^ㇿ〇₀〕というピッチ形は現われず、〔^ㇿ〇₁^ㇿS〇₀〕とい
うピッチ形のみが現われる。この際Sのあとのモーラの母音の広狭は無関係である。たとえば5c
「二千人」,「一月五日」は第4モーラが狭いにもかかわらず〔ニ^ㇿゼンニン〕,〔ゴ^ㇿカニチ〕と
発音され、〔^{*}ニセ^ㇿニニ〕〔^{*}ゴカ^ㇿニチ〕とは発音されない。これもSに下降調が現われない
という制限によると考えられる。

2.5 用言のアクセント

秋永氏の報告と重複する部分が多いが、表3に動詞の、表4に形容詞のアクセントを示す。諸活
用形のアクセント、複合動詞のアクセントも調査したが、紙面の都合で省略する。

表3 佐柳島方言・動詞のアクセント

1・母	着	2z	キ ^ㇿ ル。	キ ^ㇿ ルトキ…
		2b	キ ^ㇿ タ ^ㇿ 。	キ ^ㇿ タ ^ㇿ トキ…
1・子	焼	2z	ヤ ^ㇿ ク。	ヤク ^ㇿ トキ…
		3b	ヤ ^ㇿ イタ。	ヤ ^ㇿ イタトキ…
1・子	飲	2z	ノム。	ノム ^ㇿ トキ…
		3z	ノー ^ㇿ ダ。	ノー ^ㇿ ダトキ…
2・母	入	3c	イ ^ㇿ ル。	イ ^ㇿ ルトキ…
		3b	イ ^ㇿ タ ^ㇿ 。	イ ^ㇿ タトキ…
	建	3a	タ ^ㇿ ル。	タテ ^ㇿ ルトキ…

注

- 1) 表の左端の数字は語幹の音節数,「子」は子音幹,「母」は母音幹,の意味である。
- 2) 「トキ」のアクセントは2aである。
- 3) 秋永氏は「1・母」の動詞に2種類のアクセントがあるとされるが、私の調査では1種類だけであった。
- 4) 表にあげたものの他に「1・子」の動詞にはいくつか例外的なアクセントをもつものがある:「居る,吸う,言う」

2・子	渡	3 z	タテ『タ。	タテタ「トキ…
		3 c	ワ『タ「ス。	ワ『タ「ストキ…
		4 c	ワ『タ「シタ。	ワ『タ「シタトキ…
		3 a	ウツ「ス。	ウツ「ストキ…
3・母	写	4 a	ウツ「シタ。	ウツ「シタトキ…
		4 c'	クラ「ベ「ル。	クラ「ベ「ルトキ…
		4 c'	クラ「ベ「タ。	クラ「ベ「タトキ…
		4 a	シラ「ベ「ル。	シラ「ベ「ルトキ…
3・子	調	4 a	シラ「ベ「タ。	シラ「ベ「タトキ…
		4 c'	ハタ「ラ「ク。	ハタ「ラ「クトキ…
		4 c'	ハタ「ラ「イタ。	ハタ「ラ「イタトキ…
		4 a	アツ「マ「ル。	アツ「マ「ルトキ…
3・子	働	5 a	アツ「マ「ッタ。	アツ「マ「タトキ…
3・子	集			

はいずれも2 bのアクセントをもち、
「オ」ル。「オ」ル…「ス」ー。「ス」ー…
「ユ」ー。「ユ」ー…と発音される。ただ
し「言う、吸う」には2 zの規則的なア
クセントも存在する。

表 4 佐柳島方言・形容詞のアクセント

1	無	2 z	ナ「イ。	ナイ「トキ…
		2 b	「フー。	「フーナル。
2	赤	3 b'	ア「カ「イ。	ア「カ「イトキ…
		3 b'	ア「ゴ「ー。	ア「ゴ「ーナル。
	暑	3 a	ア「ツ「イ。	アツ「イトキ…
		3 b'	ア「ツ「ー。	ア「ツ「ーナル。
3	冷	4 c'	ツメ「タ「イ。	ツメ「タ「イトキ…
		4 c'	ツメ「ト「ー。	ツメ「ト「ーナル。
	苦	4 a	クル「シ「ー。	クル「シ「ートキ…
		4 a	クル「シ「ン。	クル「シ「ンナル。

注

1) 秋永氏は「暑」と「赤」のアクセントは、
ウ音便形でもちがいがいとされるが、私の
調査では区別がなかった。

2) 数字は語幹の音節数。

2.6 音韻論的解釈について

まず名詞のアクセント解釈についてのべる。表5に服部氏の解釈と私の解釈を示した。4モーラ
以上の名詞に関しては服部氏の解釈がないため、私の解釈のみをあげる。

表 5 佐柳島方言・名詞のアクセント解釈

		服部 (1973)	私 の 解 釈
1~2b	葉	/ハ「ー/	/ハ「(ー)/
1~2z	蚊	/「カ「ー/	/「カ「(ー)/

2a	山	/ヤマ/	/ヤマ/
2b	石	/イシ/	/イシ/
2b'	音	/オト/	/オト/
2c	庭	/ニワ/	/ニワ/
		/ニワ・ニ/	/ニワ・ニ/
		/ニワ・ガ/	/ニワ・ガ/
		//ニワ//	
2z	糸	/イト/	/イト/
		/イト・ニ/	/イト・ニ/
		/イト・ガ/	/イト・ガ/
		//イト//	
3a	鏡	/カガミ/	/カガミ/
3a'	袋	/フクロ/	/フクロ/
3b	柱	/ハシラ/	/ハシラ/
3b'	岬	/ミサキ/	/ミサキ/
3c	鯛	/イワシ/	/イワシ/
3c'	畑	/ハダケ/	/ハダケ/
3z	兎	/ウサギ/	/ウサギ/

4a	小道	/ヤマミチ/	5b	台所	/ダイドコロ/
4b	小遣	/ゴズカイ/	5b'	女学生	/ジョウガクセー/
4b'	朝顔	/アサガオ/	5c	右左	/ミギヒダリ/
4c	産毛	/ネゴヒゲ/	5c'	山桜	/ヤマザクラ/
4c'	金槌	/カナヅチ/	5d	三千個	/サンゼンコ/
4d	四千	/ヨンゼン/	5d'	雪滑	/ユキズベリ/
4d'	(欠)	/〇〇〇〇/	5e	打上	/ウッチャガリ/
4z	旋毛	/ギリギリ/	5e'	二重瞼	/フタカマメ/
5a	消壺	/ヒケシツボ/	5z	船大工	/フナダイク/

表5の服部氏の解釈において、///内は形態アクセント素レベルでの表示である。

服部氏は、3モーラの名詞に/〇〇〇/、//〇〇〇//という型も存在しそうだと言われるが、私の調査した範囲では存在しない。

服部氏は2cと2zがアクセント素のレベルでは区別がなく、より抽象的な形態アクセント素のレベルでのみ区別があるとされる。しかし付属語なしでつづけた場合には違いがあることや、単独言いきりでも違いがあるとするインフォーマントも存在するので、私はアクセント素のレベルでも区別されると考える。

また服部氏の解釈と異なるのは、私が c, d, e 系列に対して /l/ を与えた点である。その根拠は付属語のアクセントにある。そこでまず付属語のアクセント解釈を行なう。

付属語には有核のものと無核のものがある。

無核と考えられるのは、「イ」以外の調査したすべての 1 モーラの付属語 (/ガ/, /エ/, /オ/, /ジャ/, /デ/, /ト/, /ニ/, /ノ/, /モ/, /ワ/) および /カラ/ である。有核と考えられるのは 1 モーラの付属語では // ㄱイ //, 2 モーラの付属語では「カラ」以外の調査したすべてのもの (// ㄱサエ //, // ㄱダケ //, // ㄱマデ //, // ㄱヤカ //, // ㄱヨリ //, // ㄱシカ //, // ㄱニモ //, // ㄱニワ //) である。付属語の語頭の // ㄱ // は、アクセント素のレベルでは名詞の語末モーラに / ㄱ / を与える働きをする。この他、動詞につく 2 モーラの付属語には / ㄱㄱ / というアクセント素をもつものが存在する (/ダㄱリ/, /ダㄱラ/ など)。名詞につく付属語でも例が見つかるかもしれない。

付属語の核は、z 系列の名詞についたときにだけ顕在化し、z 系列以外のすべての名詞についたときには無核となる。

まず z 系列の名詞に付属語がついた場合のアクセントを考える。ここで「糸い」以下を c 系列と

(1)	3z	イトニ...	/イト・ニ/
	4z	イトカラ...	/イト・カラ/
(2)	3c	イㄱㄱイ...	/イトㄱ・イ/
	4c	イㄱㄱニワ...	/イトㄱ・ニワ/
	4c'	イトㄱㄱマデ...	/イトㄱ・マデ/
	4d	ウサㄱㄱイ...	/ウサㄱㄱ・イ/
	5d	ウサㄱㄱニワ...	/ウサㄱㄱ・ニワ/
	5d'	ウサㄱㄱマデ...	/ウサㄱㄱ・マデ/

したのは次の理由による。「底」(2c) と「其処」(2z) は、単独で切りで区別があるというインフォーマントも「イ, ニワ, マデ」をつけると区別が失われ、どちらも「ソㄱㄱイ... ソㄱㄱニワ... ソㄱㄱマデ...」というアクセントになるのである。そこで、どちらも /ソㄱㄱ・イ/, /ソㄱㄱ・ニワ/, /ソㄱㄱ・マデ/ というアクセント素を有すると考える。

b, c 系列など / ㄱ / を有する名詞に付属語

がついた場合、付属語の核は潜在化してすべての付属語が名詞のあとに低くつく。これは多くの方言にみられる現象である。

問題なのは a 系列の名詞に有核の付属語がついた場合である。予想に反してこの場合も有核の付属語は無核となるのである。たとえば 2a の名詞につけてみると次のようなアクセントになる。

(1)	3a	ヤマㄱニ...	/ヤマ・ニ/
	4a	ヤマㄱカラ...	/ヤマ・カラ/
(2)	3a	ヤマㄱイ...	/ヤマ・イ/
	4a	ヤマㄱニワ...	/ヤマ・ニワ/
	4a	ヤマㄱマデ...	/ヤマ・マデ/

有核の付属語は z 系列の名詞の語末モーラには核を与えるのに、a 系列の名詞には核を与えない。この現象は次のように説明することができる。佐柳島方言には、b 系列をのぞいて非低起式 (/l/ をもたない) の名詞には / ㄱ / をもつものはない。この制限を文節

にもあてはめて、「b 系列をのぞいて非低起式の文節は / ㄱ / をもたない」と言うことができるわけである。

b 系列にだけは /l/ を与えることはできない。その理由も付属語のアクセントに関係がある。

表1に示したように1~2bと1~2zの名詞は1モーラにも2モーラにも発音される。ところが、1~2zの名詞に有核の付属語がついたときに限って、その名詞は必ず2モーラに発音される。たとえば「蚊い、蚊には、蚊まで」は〔カ¹「¹イ…、カ¹「¹ニワ…、カ¹「マ¹デ…〕(3c/カ¹「¹イ/, 4c/カ¹「¹ニワ/, 4d/カ¹「マ¹デ/というアクセントであって、〔*¹カ¹「¹イ…、*¹カ¹「¹ニワ…、*¹カ¹「マ¹デ…〕(2b/*¹カ¹「¹イ/, 3b/*¹カ¹「¹ニワ/, 3b/*¹カ¹「マ¹デ/)というb系列のアクセントは存在しない。これはb系列が/ ¹ /をもっていないためである。なお/ ¹ /と/ ¹ /が同一のモーラには存在しない、という現象は他の方言にも広く見られる。

上野氏は付属語のアクセントについて別の解釈をされているが、その解釈が基いている秋永氏の調査結果が私の調査結果と一致しないため(2.3参照)、本稿では触れない。

以上付属語のアクセントについてのべた。そこで触れたa系列の名詞に有核の付属語がついた場合にその付属語が無核化するという現象を説明するために、c, d, e系列に/ ¹ /を与えることが必要なのである。

なお上野氏は/ ¹ /ではなく/ ¹ /をたてておられる。私はどちらをとるべきかよく分らないので一応服部氏に従って/ ¹ /としておいた。

佐柳島方言のアクセント体系は、nモーラにn+1種類の対立があるものと考えられる。ただし2モーラには4種類の対立がある。

3. 真鍋島方言のアクセント

3.1 はじめに

真鍋島には岩坪と本浦の2集落がある。佐柳島にも本浦という集落があって紛わしいが、以下単に本浦というときは真鍋島本浦をさす。

金田一・秋永・金井(1966)は本浦若年層と本浦・岩坪両方の老年層の調査報告である。本浦若年層の調査は金田一氏、老年層の調査は金井氏が担当されている。両氏の報告と私の調査結果には一致しない点がいくつかある。そのうち最大のものは、岩坪方言のアクセントについてである。金井氏は、岩坪方言と本浦方言のアクセントにはあまり相違がないように記述されているが、私の調査では両方言の間にははっきりとしたアクセントのちがいが存在した。このことは島民の意識にものぼっており、インフォーマントの中には例をあげて違いを指摘してくださるかたもあった。金井氏の岩坪方言のインフォーマントであった故山口善松氏は外住経験の長いかたであり、本来の岩坪方言のアクセントを失っていたものと思われる(山口氏の甥にあたる浜西利治氏に伺ったところ、山口氏は大正6年から昭和20年まで、阪神方面に住んでおられたとのことである)。なお私の調査でも、中学生の場合は本浦方言と同じアクセントをもっていた。その中学生に私が岩坪方言のアクセントをまねてみたところ、それは古めかしいアクセントで、自分はそのようには言わないが、岩坪出身の中学生の中にはそういうアクセントを使うものもある、とのことであった。

3.2 真鍋島岩坪方言のアクセント

3.2.1 名詞のアクセント

表6に私の調査結果をまとめた。6モーラの名詞は調査不十分な点が多いがアクセント体系の解釈に必要なので、あわせて示した。

表6 岩坪方言・名詞のアクセント

1~2a	蚊	「カー。	「カー<。	「カー<…
1~2b	葉	「ハー。	「ハー<。	「ハー<…
1~2z	手	テ「ー。	テー「<。 〔「イ以外〕	テー<…
			テ「ー「イ。	テー「イ…
2 a	山	「ヤマ。	「ヤマ「ニ。 〔狭〕	「ヤマ<…
			「ヤマガ。 〔広〕	
2 b	石	「イシ。 〔狭〕	「イシ<。	「イシ<…
2 b'	音	オ「ト「。 〔広〕	オ「ト「<。	オ「ト「<…
2 c	庭	ニ「ワ。	ニ「ワ「ニ。 〔狭〕	ニワ「<…
			ニワ「ガ。 〔広〕	
2 z	糸	イト「。	イト「<。 〔「イ以外〕	イト<…
			イト「イ。	イト「イ…
3 a	鏡	「カガ「ミ。 〔狭〕	「カガミ「<。	「カガミ<…
3 a'	袋	「フクロ。 〔広〕	「フクロ「<。	「フクロ<…
3 b	柱	「ハ「シラ。 〔狭広〕	「ハ「シラ<。	「ハ「シラ<…
3 b'	岬	ミ「サ「キ。 〔狭 広〕以外	ミ「サ「キ<。	ミ「サ「キ<…
3 c	鯛	イ「ワシ。 〔狭〕	イ「ワシ<。 イワ「シ<。	イワシ「<…
3 c'	畑	ハタ「ケ「。 〔広〕	ハタ「ケ「<。	ハタケ「<…
3 z	兎	ウサ「ギ。	ウサギ「<。 〔「イ以外〕	ウサギ<…
			ウサ「ギ「イ。	ウサギ「イ…

注

1) 表の見かたは表1と同じ。調査した付属語も同じである。

2) 3 a, 3 a'の単独言いきりと2 a 助詞つき言いきりでは下降調が現われることがあるが、多くはない。たとえば「フクロ」「カガミ」「ヤマニ」などである。

3) 山本サワノ氏には文節初頭以外の〔d, g〕の前に鼻音の入りわたりが聞かれる。

4) 4 c, 5 c, 6 c, 6 dは、ときに相補分布がくずれて、言いきり、助詞つき、続けた場合、のすべてにわたって4 c', 5 c', 6 c', 6 d'と同じピッチ形となることもある。なお5 d'が5 c'と同じピッチ形になることはない。

4 a	山道	「ヤマミチ。」	「ヤマミチ」△。	「ヤマミチ」△…
4 b	小遣	「ゴ」ズカイ。 〔狭 広〕	「ゴ」ズカイ △。	「ゴ」ズカイ △…
4 b'	朝顔	ア「サ」ガオ。 〔狭 広〕 以外	ア「サ」ガオ △。	ア「サ」ガオ △…
4 c	産毛	ネ「ゴ」ヒゲ。 〔狭 広〕	ネコヒ「ゲ」△。	ネコヒ「ゲ」△…
4 c'	金槌	カナ「ズ」チ。 〔狭 広〕 以外	カナズ「チ」△。	カナズ「チ」△…
4 d'	片目	ガンチ「メ」。 〔広〕	ガンチ「メ」△。	ガンチ「メ」△…
4 z	旋毛	ギリギ「リ」。	ギリギリ「リ」△。 〔「イ」以外〕	ギリギリ△…
			ギリギ「リ」△イ。	ギリギリ「イ」…
5 a	消壺	「ヒケシツ」ボ。	「ヒケシツ」ボ△。 「ヒケシツ」ボ△。 「ヒケシツ」ボ△。	「ヒケシツ」ボ△… 「ヒケシツ」ボ△… 「ヒケシツ」ボ△…
5 b	台所	「タ」イドコロ。 〔狭 広〕	「タ」イドコロ △。	「タ」イドコロ △…
5 b'	女学生	ジョ「ガ」クセー。 〔狭 広〕 以外	ジョ「ガ」クセー △。	ジョ「ガ」クセー △…
5 c	山桜	ヤマ「ザ」クラ。 〔狭 広〕	ヤマザク「ラ」△。	ヤマザク「ラ」△…
5 c'	雪滑	ユキス「ベ」リ。 〔狭 広〕 以外	ユキス「ベ」リ △。	ユキス「ベ」リ △…
5 d'	二重險	フタカワ「メ」。 〔広〕	フタカワ「メ」△。	フタカワ「メ」△…
5 z	船大工	フナダイ「ク」。	フナダイク「ク」△。 〔「イ」以外〕	フナダイク △…
			フナダイ「ク」△イ。	フナダイク「イ」…
6 a	肋骨	「ロクマイ」ボネ。 「ロクマイ」ボネ。	「ロクマイ」ボネ △。 「ロクマイ」ボネ △…	
6 b	曾祖母	「ヒ」ーバーサン。 〔狭 広〕	「ヒ」ーバーサン △。	
			「ヒ」ーバーサン △…	
6 b'	弘法大師	オ「タ」イシサン。 〔狭 広〕 以外	オ「タ」イシサン △。	
			オ「タ」イシサン △…	
6 c	雪合戦	ユキ「ガ」ッ シェン。 〔狭 広〕	ユキガッ「シェ」ン △。	
			ユキガッ「シェ」ン △…	
6 c'	密柑畑	ミカン「バ」タケ。 〔狭 広〕 以外	ミカン「バ」タケ △。	
			ミカン「バ」タケ △…	

6d 氷枕 (6aにも)	コーリ『マ』クラ。 〔狭広〕	トービキ『モ』チ<。 トービキ『モ』チ<…
6d' 唐きび餅	トービキ『モ』チ。 〔狭 広〕以外	トービキ『モ』チ<。 トービキ『モ』チ<…
6e' (欠)	○○○○○『○』。 〔広〕	○○○○○『○』<。 ○○○○○『○』<…
6z 三階建	サンガイダ『チ』。	サンガイダチ『<』。 〔イ〕以外 サンガイダ『チ』イ。 サンガイダチ<… サンガイダチ『イ』…

佐柳島方言との相違点を中心に検討する。

a 系列は、語頭から高く発音される点、および 5 モーラ以上の文節の文節末のいくつかのモーラが低くなる点が佐柳島方言と異なる。

b 系列と z 系列については佐柳島方言と全く同じである。

c, d, e 系列は、言いきりの場合に文節末以外の環境では上昇調のみで下降調が現われないこと、続けた場合には高平調となることが佐柳島方言と異なる。

2c と 2z の単独言いきりでアクセントは、佐柳島方言と同様、違いがあると言う人となんと言う人にわかれる。違いがあるという人に両者を対比して発音してもらうと、2c の方をより強く上昇の度合を大きく発音される。また付属語なしで続けた場合にははっきり区別できる。

- { 2c 釜 カ『マ』アル『カ』, カ『マ』コ『ー』タ。
- { 2z 鎌 カマアル『カ』, カマ『コ』ータ。

なお 2c と 2z の区別については本浦方言でも全く同じことが言える。

3 モーラ以上の c, d, e, z 系列の名詞を助詞なしで続けた場合のアクセントを示しておく。
〔3c イワ『シ』…, 3d' ハタ『ゲ』…, 3z ウサギ…, 4c ネコヒ『ゲ』…, 4d' カナズ『チ』…, 4d ガンチ『メ』…, 4z ギリギリ…, 5c ヤマザク『ラ』…, 5d' ユキス『ベ』リ…, 5d' フタカワ『メ』…, 5z フナダイク…, 6c ユキガッ『セ』ン…, 6d' ミカン『バ』タケ…, 6d コーリマク『ラ』…, 6d' トービキ『モ』チ…, 6e' (欠) ○○○○○『○』…, 6z サンガイダチ…〕この場合も z 系列とそれ以外の区別は明瞭である。

音の長さや強さについても佐柳島方言と同じことが言える。〔○, 『○』, 『○』〕のモーラが長めにそしてやや強めに発音される傾向がある。

名詞のまえに「この」をつけた場合のアクセントについて述べる。「コノ」は佐柳島方言と異なり、2a 〔『コノ』。『コノ』ト』〕（言う）というアクセントである。2, 3 モーラの名詞についた場合を示す。

2a 〔『コノ』ヤマ。2b 〔『コノ』イシ。2b' 〔『コノ』オト』。2c 〔『コノ』ニ『ワ』。～〔『コノ』ニワ。2z 〔『コノ』イト。

3a「コノカガ」ミ。3a「コノフクロ」。3b「コノハシラ。3b「コノミザ」キ。3c「コノ」イ「ワシ。3c「コノ」ハタ「ケ」。3z「コノ」ウサギ。

2cと2zを対にして発音してもらえると、2cを「コノニ「ワ」のように発音されることが多かった（cf. 金田一他（1966）P. 5）。またbは前に「コノ」をつけると語頭のモーラは高く聞こえる。

佐柳島方言との対応は、4、5モーラの単語ではかなり例外も多い。ここでは先に2.2であげた単語の岩坪方言でのアクセントを示すにとどめる。「岩4a＝佐4a」とあれば、2.2で佐柳島方言において4aに属するとしてあげた単語は岩坪方言で4aに属することを示す。

岩4a（多）＝佐4a。岩4b＝佐4b。岩4b＝佐4b。岩4c＝佐4c。岩4c＝佐4c。岩4z＝佐4zと4d。岩5a（多）＝佐5a。岩5b＝佐5b（ただし「ハイナゴ」は岩坪では使用されず）。岩5b＝佐5b。岩5c＝佐5cのうち○○○○の単語（風車、箱枕、四万個）、および佐5d。岩5c＝佐5c、5d、5e、および5cのうち○○○○の単語（砂煙、水遊）。岩5d＝佐5c。岩5z＝佐5z。

3.2.2 付属語のアクセント

2モーラの付属語のアクセントを表7に示した。

表7 岩坪方言・2モーラ付属語のアクセント

1-2a 蚊	「カー」△△。	「カー」△△…	4a
1-2b 葉	「ハ」△△△。	「ハ」△△△…	4b
1-2z 手	「テ」△△ニワ。 〔狭 広〕 「テ」△△マデ。 〔狭 広〕以外 テカ「ラ。	「テ」△△△… テカラ…	4c 4c' 4z
2a 山	「ヤマ」△△△。	「ヤマ」△△△…	4a
2b 石	「イ」△△△△。	「イ」△△△△…	4b
2b 音	オ「ト」△△△。	オ「ト」△△△…	4b
2c 庭	「ニ」△△ニワ。 〔狭 広〕 「ニ」△△マデ。 〔狭 広〕以外	ニワ△△△…	4c 4c'
2z 糸	「イ」△△ニワ。 〔狭 広〕 「イ」△△マデ。 〔狭 広〕以外 イトカ「ラ。	「イ」△△△△… イトカラ…	4c 4c' 4z
3a 鏡	「カガミ」△△△。	「カガミ」△△△… 「カガミ」△△△…	5a

注

- 1) 表の見かたは表2に同じである。調査した付属語も同じである。
- 2) 付属語の母音の広狭によってピッチ形が変わる。また「カラ」はz系列についたときだけ他の2モーラの付属語とアクセントが異なる。z系列以外についたときは「マデ」と同じアクセントである。ただ、強調した場合はz系列についても「マデ」と同じアクセントになる。

3b 柱	ワシラ◁◁。	ワシラ◁◁…	5b
3b' 岬	ミサキ◁◁。	ミサキ◁◁…	5b'
3c 鰯	{イワシ◁ニワ。 〔狭広〕	イワシニ◁…	5c
3c'=3c	イワシ◁マデ。 〔狭広〕以外	イワシ◁マデ…	5c'
3z 兎	{ウサギ◁ニワ。 〔狭広〕	ウサギニ◁…	5c
	ウサギ◁マデ。 〔狭広〕以外	ウサギ◁マデ…	5c'
	ウサギカ◁ラ。	ウサギカラ…	5z
4c 産毛	ネコヒ◁◁。	ネコヒ◁◁…	6c'
4c'=4c			
4d' 片目	ガンチ◁◁。	ガンチ◁◁…	?
4z 旋毛	{ギリギリ◁ニワ。 〔狭広〕	ギリギリニ◁…	6d'
	ギリギリ◁マデ。 〔狭広〕以外	ギリギリ◁マデ…	6d'
	ギリギリカ◁ラ。	ギリギリカラ…	6z
5c 山桜	ヤマザク◁◁。	ヤマザク◁◁…	
5c' 雪滑	ユキス◁◁。	ユキス◁◁…	
5d' 二重瞼	フタカワ◁◁。	フタカワ◁◁…	
5z 船大工	{フナダイ◁◁ニワ。 〔狭広〕	フナダイ◁ニ◁…	
	フナダイ◁◁マデ。 〔狭広〕以外	フナダイ◁◁マデ…	
	フナダイ◁◁カラ。	フナダイ◁◁カラ…	
6c 雪合戦	ユキガッ◁◁。	ユキガッ◁◁…	
6c' 密柑畑	ミカン◁◁。	ミカン◁◁…	
6d 氷枕	コーリ◁◁。	コーリ◁◁…	
6d' 唐きび餅	トービキ◁◁。	トービキ◁◁…	
6e' (欠)	○○○○◁。	○○○○◁…	
6z 三階建	{サンガイ◁◁ニワ。 〔狭広〕	サンガイ◁◁ニ◁…	
	サンガイ◁◁マデ。 〔狭広〕以外	サンガイ◁◁マデ…	
	サンガイ◁◁カラ。	サンガイ◁◁カラ…	

付属語の母音の広狭による相補分布はときに崩れることがあって、「ニワ」の類のアクセントが表に示した「マデ」の類のアクセントと同じになる場合がある。しかし逆に「マデ」の類が「ニワ」の類のアクセントになることはない。

3.2.3 長音節のアクセント

佐柳島方言と同じことが言える。アクセントの単位はモーラであるが、長音節の第2モーラに下降調が、さらにその中で促音には上昇調も現われない、という制限がある。いくつか例をあげる。
 3c 冬至「ト「ジ。～ト「ジ。トージ「ジ…」、3b 空気「ク「キ。～「ク「キ。「ク「キ「ジ…」～「ク「キ「ジ…」なおb系列における「「S O₀ ～「O S₁ O₀」というピッチの揺れは両山本氏に観察される。

3.2.4 用言のアクセント

表8, 9, に調査結果をまとめた。

表8 岩坪方言動詞のアクセント

1・母	着	2z	キ「ル。	キル「トキ…
		2b	キ「タ」。	キ「タ」トキ…
1・子	焼	2z	ヤ「ク。	ヤク「トキ…
		3b	「ヤ「イタ。	「ヤ「イタトキ…
	飲	2z	ノ「ム。	ノム「トキ…
		3z	ノン「ダ。	ノンダ「トキ…
2・母	入	3c	イ「レ「ル。	イレ「ル「トキ…
		3b	イ「レ「タ。	イ「レ「タトキ…
	建	3a	「タテ「ル。	「タテルトキ…
		3z	タテ「タ。	タテタ「トキ…
2・子	渡	3c	ワ「タ「ス。	ワタ「ズ「トキ…
		4c	ワ「タ「シタ。	ワタシ「タ「トキ…
	写	3a	「ウツ「ス。	「ウツストキ…
		4a	「ウツシ「タ。	「ウツシタトキ…
3・母	比	4c	クラ「ベ「ル。	クラベ「ル「トキ…
		4c	クラ「ベ「タ。	クラベ「タ「トキ…
	調	4a	「シラベ「ル。	「シラベルトキ…
		4a	「シラベ「タ。	「シラベタトキ…
3・子	働	4c	ハタ「ラ「ク。	ハタラ「ク「トキ…
		5c	ハタ「ラ「イタ。	ハタライ「タ「トキ…
	集	4a	「アツマ「ル。	「アツマルトキ…
		5a	「アツマッ「タ。	「アツマッタトキ…

佐柳島方言と同様次の動詞のアクセントは不規則である。「居る, 言う, 吸う」は「「オ「ル…, 「「ユ

一…,「ズー…」という2bのアクセントである。ただし,「言う,吸う」には2zの規則的なアクセントもある。

表9 岩坪方言・形容詞のアクセント

1	無	2z	ナ「イ。	ナイ「トキ…
		2b	「フー。	「フーナル。
2	赤	3b'	ア「ガ「イ。	ア「ガ「イトキ…
		3b'	ア「ゴ「ー。	ア「ゴ「ーナル。
	暑	3a	「アツ「イ。	「アツイトキ。
		3b'	ア「ツ「ー。	ア「ツ「ーナル。
3	冷	4c'	ツメ「ダ「イ。	ツメタ「イ「トキ。
		4c'	ツメ「ト「ー。	ツメト「ーナル。
	苦	4a	「クルジ「ー。	「クルシートキ。
		4a	「クルジ「ン。	「クルシ「ンナル。

3.2.5 音韻論的解釈について

表10に名詞と名詞に付属語をつけた場合のアクセント解釈を示した。

表10 岩坪方言のアクセント解釈

1-2a	蚊	／カー／			／ヒ「ワ」△△。／
1-2b	葉	／ハ「(ー)／			／ヒ「ワ」...／
1-2z	手	／テ「(ー)／			／ヒ「ワ」△「...／
		／テ「△／ 「イ」以外			／ヒ「ワ」△△「...／
		／テ「カラ／	2 z	糸	／ヒト／
		／テ「イ。／			／ヒト△／ 「イ」以外
		／テ「△△。／ 「カラ」以外			／ヒトカラ／
		／テ「イ...／			／ヒト「イ。／
		／テ「△△「...／ 「カラ」以外			／ヒト「△△。／ 「カラ」以外
					／ヒトイ...／
2 a	山	／ヤマ／			／ヒト△△「...／ 「カラ」以外
2 b	石	／イシ／			
2 b'	音	／オト／	3 a	鏡	／カガミ／
2 c	庭	／ヒ「ワ。／	3 a'	袋	／フクロ／
		／ヒ「ワ」△。／	3 b	柱	／ハシラ／

3b	岬	/ミ ¹ サキ			/ ギリギリ ¹ イ。/
3c	鯛	/ イワ ¹ シ。/			/ ギリギリ ¹ △△。/
		/ イワ ¹ シ△。/			〔カラ以外〕
		/ イワシ ¹ △△。/			/ ギリギリイ ¹ .../
		/ イワシ.../			/ ギリギリ△ ¹ △.../
		/ イワシ△ ¹ (△) .../			〔カラ以外〕
3c'	畑	/ ハタ ¹ ケ。/	5a	消毒	/ヒケシツボ/
		/ ハタ ¹ ケ△。/	5b	台所	/ダ ¹ イドコロ/
		/ ハタケ ¹ △△。/	5b'	女学生	/ジョ ¹ ガクセー/
		/ ハタケ.../	5c	山桜	/ ヤマザ ¹ クラ。/
		/ ハタケ△ ¹ (△) .../			/ ヤマザク ¹ ラ△(△)。
3z	兎	/ ウサギ/			/ ヤマザク ¹ ラ△(△) .../
		/ ウサギ△/	5c'	雪滑	/ ユキス ¹ ベリ。/
		〔イ以外〕			/ ユキスベ ¹ リ△(△)。
		/ ウサギカラ/			/ ユキスベ ¹ リ△(△) .../
		/ ウサギ ¹ イ。/	5d'	二重脰	/ フタカワ ¹ メ。/
		/ ウサギ ¹ △△。/			/ フタカワメ ¹ △(△)。
		〔カラ以外〕			/ フタカワメ ¹ △(△) .../
		/ ウサギイ.../	5z	船大工	/ フナダイク/
		/ ウサギ△ ¹ △.../			/ フナダイク△/
		〔カラ以外〕			〔イ以外〕
4a	山道	/ ヤマミチ/			/ フナダイクカラ/
4b	小遣	/ ゴ ¹ ズカイ/			/ フナダイク ¹ イ。/
4b'	朝顔	/ ア ¹ サガオ/			/ フナダイク ¹ △△。/
4c	産毛	/ ネコ ¹ ヒゲ/			〔カラ以外〕
		/ ネコヒ ¹ ゲ△(△)。			/ フナダイクイ ¹ .../
		/ ネコヒゲ ¹ △(△) .../			/ フナダイク△ ¹ △.../
4c'	金槌	/ カナ ¹ ズチ。/			〔カラ以外〕
		/ カナズ ¹ チ△(△)。	6a	肋骨	/ ロクマイボネ/
		/ カナズチ ¹ △(△) .../	6b	曾祖母	/ ヒーバーサン/
4d'	片目	/ ガンチ ¹ メ。/	6b'	弘法大師	/ オ ¹ ダイシサン/
		/ ガンチメ ¹ △(△)。	6c	雪合戦	/ ユキガ ¹ ッシェン。/
		/ ガンチメ ¹ △(△) .../			/ ユキガッ ¹ シェン△(△)。
4z	旋毛	/ ギリギリ/			/ ユキガ ¹ ッシェン△(△) .../
		/ ギリギリ△/	6c'	密柑畑	/ ミカン ¹ バタケ。/
		〔イ以外〕			/ ミカンバ ¹ タケ△(△)。
		/ ギリギリカラ/			/ ミカンバ ¹ タケ△(△) .../

6d 氷枕	／ $\square$ ーリマ $\square$ クラ。／ ／ $\square$ ーリマ $\square$ ラ $\triangleleft$ ($\triangleleft$)。／ ／ $\square$ ーリマ $\square$ ラ($\triangleleft$ ($\triangleleft$))…／	6z 三階建	／サンガイダチ／ ／サンガイダチ $\triangleleft$ ／ 〔「イ」以外〕
6d' 唐きび餅	／ $\square$ ービキ $\square$ モチ。／ ／ $\square$ ービキモ $\square$ チ $\triangleleft$ ($\triangleleft$)。／ ／ $\square$ ービキモ $\square$ チ($\triangleleft$ ($\triangleleft$))…／		／サンガイダチカラ／ ／サンガイダチ $\square$ イ。／ ／サンガイダチ $\square$ $\triangleleft$ ($\triangleleft$)…／ 〔「カラ」以外〕
6e' (欠)	／ $\square$ 〇〇〇〇 $\square$ 〇。／ ／ $\square$ 〇〇〇〇〇 $\square$ $\triangleleft$ ($\triangleleft$)。／ ／ $\square$ 〇〇〇〇〇 $\square$ ($\triangleleft$ ($\triangleleft$))…／		／サンガイダチ $\square$ …／ ／サンガイダチ $\square$ $\triangleleft$ ($\triangleleft$)…／ 〔「カラ」以外〕

低起式で／ $\square$ ／をもつ文節では付属語をつけたり、続けたりすると／ $\square$ ／の位置が後ろにずれることがある。まず5モーラ以上の付属語つきの文節を言いきった場合、単独言いきりの場合に比べて／ $\square$ ／が1モーラ後ろにずれている。なお、4モーラ以下の文節では原則としてずれない。次に、単独であれ、付属語つきであれ、切らずに続けた場合は、文節の長さとは無関係に単独言いきりの場合に比べて／ $\square$ ／が1モーラ後ろにずれる。それに加えて、／ $\square$ ／の位置が語頭から4モーラ以内にあるときは、切らずに続けると語頭からかぞえて第4番目のモーラに移動する(第4モーラがない場合は文節末のモーラに移動する)。

通時的には、核が後ろにずれる中間的な段階にあるのではなかろうか。

付属語には有核のものと無核のものがある。有核のものは「イ」と「カラ」をのぞく2モーラの付属語である。有核の付属語はz系列の名詞についたときだけ自らの核を顕在化させる。／ $\square$ イ。／／ $\square$ イ…／、／ $\square$ マデ。／、／ $\square$ マデ…／、／ $\square$ ニワ。／、／ $\square$ ワ…／などと考える。なお佐柳島方言と異なり(2.6参照)、「タリ」「タラ」のアクセントは「マデ」などと同じである。

5dと5cは、付属語つきや続けた場合のアクセントはほとんど同じであるが、表6注5)で示したように、5cは5c'と同じピッチ形になることはあるが、5d'は5c'と同じピッチ形になることがないため、別のアクセント素を有すると考える。

調査し洩らした型がないかどうかをみってみる。まず／ $\square$ 〇 $\square$ 〇〇〇。／、／ $\square$ 〇 $\square$ 〇〇〇〇。／は、3c、4c系列の名詞が付属語を従えて5モーラ以上の文節になった場合に／ $\square$ ／の位置が第2モーラから第3モーラに移ることを考えると、存在しない可能性が高い。次に、4d'、5d'、6e'はいずれも語末モーラの母音が広く、これと対をなす語末モーラの母音の狭いものは調査では得られなかった。これも存在しない可能性が高い。まず4dは4c'と同じピッチ形となるから明らかに存在しない。5d、6eは全く存在不可能というわけではない。仮に存在するとすれば、単独言いきりでは5c'、6d'と同じピッチ形で、付属語つきや続けた場合には、5d'、6e'とほとんど同じピッチ形になると考えられる。

結局、岩坪方言のアクセント体系は、1、2モーラには $n+2$ 、3、4モーラには $n+1$ 、5モーラ以上には n 種類の対立があるものと考えられる。

3.3 真鍋島本浦方言のアクセント

真鍋島本浦方言についての私の調査は極めて不十分で、ごく簡単に金田一他(1966)の調査結果と一致しない点をのべるにとどめる。本浦方言のもっと詳しい調査は今後の課題である。さて、本浦方言に老年層と若年層の間にアクセントのちがいがあることが、金田一氏と金井氏によって明らかにされている。

まず老年層のアクセントを表11に示した。表中の〔『, 』〕はそれぞれ〔『, 』〕でも実現する。

表 11 真鍋島本浦方言老年層のアクセント

	奥 川 氏	奥川氏以外		奥 川 氏	奥川氏以外
1~2a 子	「コー<	「コ<		イワ「シ<	イワ「シ<
1~2b 葉	「ハー<	「ハ<		イワシ「< (稀)	イワシ「<
1~2z 手	テ「。	テ「。	3 z 雀	スズ「メ。	スズ「メ。
	テ「<。	テ「<。		スズメ「<。	スズメ「<。
	テ「<…	テ「<…		スズメ<…	スズメ<…
2 a 犬	「イヌ<	「イヌ<	2 z 巻	マ「ク。	マ「ク。
2 b 音	「オト<	「オト「<		マク「トキ…	マク「トキ…
石	「イシ<	「イシ<~「イシ<	3 c 明	ア「ケ「ル。	アケ「ル。
2 c 風	カ「ゼ。	カ「ゼ。		ア「ケ「ルトキ…	アケ「ルトキ…
	カゼ「<。	カゼ「<。		アケ「ルトキ…	
	カゼ「<…	カゼ「<…	3 a 晴	「ハレル。	「ハレル。
2 z 糸	イ「ト。	イ「ト。		「ハレルトキ…	「ハレルトキ…
	イト「<。	イト「<。	4 c 忘	ワス「レ「ル。	ワスレ「ル。
	イト<…	イト<…		ワス「レ「ルトキ…	ワスレ「ルトキ…
3 a 頭	「アタマ。	「アタマ。		ワスレ「ルトキ…	ワスレ「ルトキ…
	「アタマ<。	「アタマ<。	2 z 良	エ「エ。	エ「エ。
	「アタマ<…	「アタマ<…		エエ「トキ…	エエ「トキ…
3 b 岬	「ミ「サキ<	「ミ「サキ<	3 b 赤	「ア「カイ	「アガ「イ
3 c 鰯	イ「ワシ。	イワ「シ。	3 a 高	「タカイ	「タカイ
	イワ「シ。				

私のインフォーマントのうち奥川氏のみが他の方々と少し違うアクセントをもっていた。そしてこの例外的な奥川氏のアクセントが、金井氏による老年層の調査結果(金井氏のインフォーマントは明治30年生の道西清吉氏^{ミチニシキヨキチ})とはほぼ一致するのである。奥川氏の発話は録音してあったので、志村、川上、小西、片山の各氏に聞いてもらったところ、皆が口をそろえて〔イ「ワシ, ア「ケ「ル〕などは岩坪のアクセントのようだと言われ、〔「ア「カイ, 「オト〕などは少し奇妙だと言われた。そうなる

と、果たして道西氏と奥川氏のアクセントが古形を保存していると言いきれるかどうか、問題がのこると思う。奥川氏はきわめて外住期間の長いかたであり、道西氏も外住経験のあるかたであることから、他の方言のアクセントの影響を考慮する必要があるかもしれない。

次に、若年層についても、金田一氏の報告と私が中学生2名を対象にして行なった調査結果には相違がある。相違点のみをあげる。

	金田一氏による	私の調査による (中学生)		金田一氏による	私の調査による (中学生)
2c 風	カ「ゼ。	カ「ゼ。	3z 雀	イワシ「◁…	イワシ「◁…
	カゼ「◁。	カゼ「◁。		スズ「メ。	スズ「メ。
	カゼ「◁…	カゼ「◁…		スズメ「◁。	スズメ「◁。
2z 糸	イト「。	イト「。	3c 明	スズメ「◁…	スズメ「◁…
	イト「◁。	イト「◁。		アケ「ル。	アケ「ル。
	イト「◁…	イト「◁…		アケ「ルトキ…	アケ「ルトキ…
3c 鯛	イワシ「シ。	イワシ「シ。	4c 忘	ワスレ「ル。	ワスレ「ル。
	イワシ「◁。	イワシ「◁。		(ワスレ「ル」モノ)	ワスレ「ルモノ…

私の調査した中学生にはc系列とz系列の区別が失われている。c系列の動詞に「モノ」, 「トキ」をつけた場合, 「モノ」, 「トキ」は高くつづくので, /「/が失われているものと考えられる。

この結果の違いは, おそらくインフォーマントの年代差が原因であろう。但し, 私の調査結果が現在のすべての中学生にあてはまるのかどうかはさらに調査が必要である。

4. 今後の課題

何よりも, 調査を続けてより完全なデータを得ることが必要である。その上で音韻論的な解釈, 祖体系の推定などを行なうことが今後の課題である。

また周辺の島々の方言のアクセント調査も進めて行く予定である。

参考文献

- 秋永一枝 (1966) 「佐柳アクセントの提起するもの」『国文学研究』33
 服部四郎 (1973) 「アクセント素とは何か?そしてその弁別の特徴とは?」『言語の科学』4
 平山輝男 (1979) 『全国方言基礎語彙の研究序説』 明治書院
 金田一春彦 (1974) 『国語アクセントの史的研究 原理と方法』 塙書房
 金田一春彦・秋永一枝・金井英雄 (1966) 「真鍋式アクセントの考察」『国語国文』35の1
 虫明吉治郎 (1954) 『岡山県のアクセント』 山陽図書出版